

## 『効果的で、簡便で、安全で、安価な骨造成法を目指して』 『インプラント治療を成功させるために必要な鍵』

春日井 昇平

東京医科歯科大学 インプラント・口腔再生医学分野 教授

### 『効果的で、簡便で、安全で、安価な骨造成法を目指して』

患者さんがインプラント治療を希望されても、インプラント埋入予定部位に十分な骨が存在しない症例は極めて多い。

21世紀になった現在においても、自家骨移植が骨造成のゴールドスタンダードであるが、採取骨量に限度があることと、骨採取部位への侵襲が問題である。近年、様々な組織の構成細胞に分化することが可能な「(幹)細胞」、細胞の増殖や分化をコントロールする「シグナル分子」、細胞が接着して増殖分化するための「足場」の3要素が組織再生に重要であり、これら3要素の1つの要素あるいは複数を組み合わせて、組織再生させたい部位へ体の外から適用する組織工学的手法が注目されている。この組織工学的手法を用いた骨組織の再生や造成に関する研究報告は多い。しかし、我々が日常臨床で応用可能な、効果的で、簡便で、安全で、安価な骨造成法は実現していない。

現在再生医療のトレンドとなっている上記の3要素を体の外から適用する組織工学的手法ではなくて、我々の研究結果や臨床症例を提示して、骨組織が本来保持している治癒能力を賦活する骨造成法を提案する。

### 『インプラント治療を成功させるために必要な鍵』

歯が欠損した場合の治療法として、歯科インプラントを用いた補綴治療（インプラント治療）は極めて有効であり、現在広くおこなわれている。一方、インプラント治療を受けたことで問題を抱えている患者さんも増加しており、現在大きな問題となっている。

長期症例におけるインプラント残存率は極めて高いが、最終補綴物装着後の様々な補綴的問題の発生頻度は高い。さらに、インプラント治療を受けた患者さんの増加、そしてその長期症例の増加に伴って、インプラント周囲組織が炎症性に破壊される「インプラント周囲炎」の増加が大きな問題となっている。自他の問題症例から、インプラント治療を成功させて、長期良好な予後を得るためには、以下の7つの点が重要であると考えている。

1. 検査、診断、治療計画が適切であること
2. 歯周病がコントロールされていること
3. インプラントの埋入が適切であること
4. 治療部位に非可動性角化粘膜が存在すること
5. 補綴物およびインプラントへの負荷が適切にコントロールされていること
6. 清掃し易い補綴物であること
7. メンテナンスが適切におこなわれていること

換言すると、インプラント治療で問題が起きている場合には、上記の点のどれかに問題があり、その点を改善しない限り、問題を解決することは難しい。

【履歴】

- 1955年 岐阜県岐阜市で出生
- 1973年 神奈川県 私立栄光学園高等学校 卒業  
東京医科歯科大学歯学部 入学
- 1979年 同上 卒業  
同上 大学院歯学研究科 入学（歯科薬理学講座）
- 1983年 同上 大学院歯学研究科 修了（歯学博士）
- 1983-1989年 同上 歯学部歯科薬理学講座 助手
- 1989-1991年 MRC Group in Periodontal Physiology, University of Toronto ポスドク
- 1991-1995年 東京医科歯科大学 歯学部歯科薬理学講座 講師
- 1995-2000年 同上 歯学部歯科薬理学講座 助教授
- 2000-2004年 同上 大学院医歯学総合研究科 摂食機能制御学分野 教授
- 2001 - 現在 同上 歯学部附属病院 インプラント外来 科長（併任）
- 2004 - 現在 同上 大学院医歯学総合研究科 インプラント・口腔再生医学分野 教授